

どなたでも
利用可能

3次元データ化ソフト

OpenDroneMapのご案内

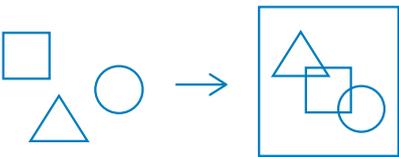
近年、ドローンの活用が活発化しているものの、空撮後の写真の後処理ソフトについては、年間100万~200万程度のコストがかかり、新規導入が難しいのが現状です。

しかしながら、現在、同様の機能を持ったオープンソース（誰もが無料で使える）の「OpenDroneMap」の開発が進んでおり、これが一般向けに普及されれば、より多くの現場でドローンを飛ばし、より多くの人々が被害状況などの把握に貢献できるようになります。

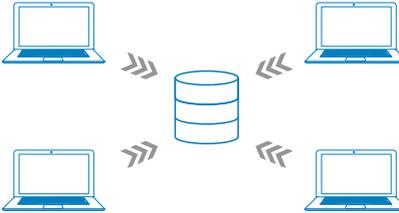
各後処理ソフトの利用料金

ソフト名	開発元	価格
Photoscan Pro	Agisoft	50万程度
Pix4D Mapper	Pix4D	120万程度
Land Forms	ISP	250万程度
OpenDroneMap	オープンソース	無料

OpenDroneMapの特徴



複数の画像を統合
複数の画像を一つの3次元データ化することで一目で状況把握ができる。



オープンソース
オープンソースのソフトウェアなので、誰でも無料で利活用できる。



地図データとして使用可能
地図データとして取扱えることで、誰でも様々な情報を追加することが可能。

ドローン×OpenDroneMapを導入するメリット 災害救助の場合

最短2時間で被災状況の把握が可能に!



ドローンを使用することによって、人間では立ち入りが難しい現場の詳細状況を把握できる。

3次元データ上に、危険箇所や避難状況などの情報を加えることで、二次災害を予防する効果がある。

オープンソースで利用するユーザーが限定されないため、一般市民の方々にも協力してもらうことが可能。



国内有数後処理スキルが習得できる講座

GIS for Drone Seminar

【対象】ドローンでのインフラ点検を行う方・ドローンの新規事業をお考えの方

【習得可能なツール】OpenGeo Suite・OpenDroneMap・QGIS・OpenStreetMap ほか

【受講料】¥ 20,000 (税抜)

Droneテンケン

検索

ドローンのあらゆることを網羅する。
Droneテンケン.com
<http://dronetenken.com/>